

さまざまな人がいま、地球環境について考え、

何をすればいいのかを模索しています。

物理的な距離や立場の違いを越えて共有できる環境への意識を、

ブロードバンドで結んで、

より良い答えを見つけることはできないだろうか・・・。

エコロジーとコミュニケーションを融合させたことば=「エココミュニケーション」は、

私たちNTTグループの、環境に対するこんな気持ちを表したものです。

お客さま、地域社会、企業、学校、市民団体、そして社員同士・・・。

2002年度も、NTTグループはさまざまな人々と環境について

話し合ってきました。

この報告書は、「エココミュニケーション」ということばに込めた私たちの意志や気持ちを反映させるべく、さまざまな立場・さまざまな年齢層の皆さまからNTTグループに寄せられた環境保護活動に関する質問をもとに、「Q&A形式」で展開しております。その質問者には、「かんきょう家族」が登場します。回答者には、各質問に該当する事業に関わっているNTTグループの社員が登場します。



かんきょう家族

光による本格的なブロードバンド・ユビキタス時代を展望して、NTTグループが策定しました「光」新世代ビジョン「ブロードバンドでレゾナントコミュニケーションの世界へ」を表す英文を円弧上にデザインし、高速大容量をイメージした流線の中に配置することで、NTTらしさを表現しました。

表紙について

光による新しい情報通信サービスで環境への負荷を軽減しながら、社会の持続的な発展に貢献します。

本格的なブロードバンド&ユビキタス時代の幕開けという時代の転換期にあたり、2002年11月、NTTグループは人と企業をはじめとするあらゆるものがインターネットに、いつでも、どこでも、誰とでもネットワークで結ばれ、世の中と“共鳴”しながら進歩するレゾナントコミュニケーションの世界=「光」新世代ビジョンを発表しました。

“光”新世代ビジョンに基づいて今後提供していくさまざまな情報通信サービスは、安全で豊かな社会生活の実現や企業活動の生産性・競争力の強化に資することはもちろん、移動するためのエネルギーの大幅な節約、それに伴う排気ガス/CO₂の削減など、環境への負荷の軽減にもつながるものです。また、2003年4月に策定しました「NTTグループ3カ年経営計画(2003~2005年度)」では、持続可能な社会の実現に向けた実用的な環境エネルギー技術の開発を、重点的な取り組みのひとつに掲げています。

NTTグループの事業活動により発生する環境負荷の低減はもちろん、社員とお客さま、そして地域社会が環境保護活動について“共鳴”し、知恵を出し合い、協働することによって問題を一つひとつ解決し、持続的に発展していける豊かな社会づくりに寄与していきたい・・・。このような私たちの姿勢をこの『NTTグループ環境保護活動報告書2003』の中にてご覧いただけますよう、お願い申し上げます。また、この報告書に関する率直なご意見やご助言をいただければ幸いです。皆さまの貴重なメッセージを、今後のNTTグループの環境保護推進に積極的に活かさせていただく所存です。



日本電信電話株式会社
代表取締役社長

和田紀夫

本報告書の編集方針

2003年度の環境保護活動報告書は、2002年度(2002年4月1日~2003年3月31日)の実績をもとに作成したものです。(一部2003年4月1日以降の活動と将来の見通しを含んでいます。)

NTTグループとして記載している2002年度の数値は、主にNTT(持株会社)、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTデータ、NTTドコモおよびそれらのグループ会社から集計しています。なお、1998年以前の数値は、主に再編以前のNTTから集計しています。詳細は巻末のデータ集をご覧ください。

本報告書は、環境省のガイドラインとGRI(Global Reporting Initiative)のガイドラインを参考に作成した「NTTグループ会社環境報告書作成ガイドライン」に基づいています。

NTTグループでは、環境保護活動報告書をウェブサイトを中心として公開しております。質問形式にして、検索しやすいように配慮しました。詳しくは巻末にウェブサイトの案内を掲出しています。ご覧ください。また、紙資源節約のため、一昨年、昨年に引き続き冊子版は必要最小限な情報とデータの記載に留めました。

第三者認証につきましては実施しないことになりましたが、本報告書はお客さまとのコミュニケーションの大切なツールのひとつと考えており、NTTグループの真実を記載させていただきます。

組織の名称は、2003年3月末日現在のものです。

2003年8月